

《文しょうもんだい16》

文ぶんを読んで答こたえるれんしゅうをします。答こたえる
ときには、もう一いちど文ぶんを読み直なおしましょう。

【れいだい】

つぎの文ぶんを読んで答こたえましょう。

今いま、しゅう店てんがい夏なつまつりで、おかしやタ
オルなどが当あたるくじ引きをやっています。くじを
引ひくのは、引きかえけんと交こうかんですが、引きか
えけんは、しゅう店てんがいで二千円にせんえんの買かいものをす
ると一いちまいもらえます。

ケンタは、お母かあさんとしゅう店てんがいやってき
ました。まつりときには、金魚ぎょすくいや、わた
がしやさん、まとあてでおもちやがもらえる店みせな
どが出ていて、たくさんの人ひとが楽たのしんでいます。

「引ひきかえけんは、二千円にせんえんも買かわないともらえな
いんだね。今日きょう、そんなに買かいものするの。」
と、ケンタ。

「そうねえ。ばんごはんの買かいも
のもするから、それくらい買かう
かもね。そういえば、くじの引ひ
きかえけんのせつ明めいを見みたら、
二百円にひゃくえんでほじょけんを一いちまいも
らえるらしいよ。ほじょけんが
十じゅうまいたまったら、くじの引ひき
かえけんをもらえるんだって。」
と、お母かあさん。

「へえ、そうか。じゃあ、今日きょう一いち
日にちでいっぺんに二千円にせんえんの買かいも
のをしなくても、くじが引ひける
んだね。ほじょけんをもらっ
たら、しつかりとっておかなきゃ。」
ケンタははりきっています。

「ほじょけん十じゅうまいで引ひきかえけん一いちまいって
ことは、ほじょけんはくじ引ひき〇・一いっかい回ぶん分ぶんって
ことね。」
と、お母かあさん。
「〇・一いっかい回ぶんってどういうこと。」

〇〇しゅう店てんがい
夏なつまつりくじ引き

ひきかえけん

〇〇しゅう店てんがい
夏なつまつりくじ引き

♣ほじょけん♣

「そうか。まだケンタは小数を学校でならってないのね。」

「うん、ならってない。小数ってなんなの。」

「そうねえ。たとえば、大きいペットボトルがあるでしょう。あれは、二リットルのみものが入っているの。半分のんだらのこりは何リットルだと思う。」

「二リットルの半分だから、一リットルでしょう。」

「そうだよ。じゃあ、そこからまた半分のんだらのこりはどれだけ。」

「うーん。それはこまるなあ。まだのこってるから、0リットルでもないし…。」

「そう。一リットルより少なくて、0リットルより多いよね。ということ、0より大きくて一より小さい数を考えたの。それが小数。0・一は小数なのよ。」

「(1) くじ引きの引きかえけんは、買いものをいくらするともらえますか。」

(2) ほじょけんは何まいたまると引きかえけんと交かんしてもらえますか。

(3) 0・一のような数をなんと言いますか。

(4) 一リットルの半分はどんなりょうですか。

() に当てはまることを書きなさい。

一リットルより少なくて、() より多いりょう。

【答え】 (1) 二千元

(2) 十まい

(3) 小数

(4) 0リットル

【せつ明】

文の中に、つぎのように書いてあります。

(1) 引きかえけんは、しょう店がいで二千元の買いものをすると一まいもらえます。

(2) ほじょけんが十まいたまったら、くじの引きかえけんをもらえるんだって。

(3) 0・一は小数なのよ。

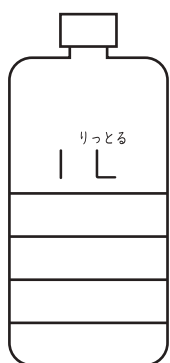
(4) 一リットルより少なくて、0リットルより多いよね。

つぎの文を読んで答えましょう。

ケンタの町のしょう店がいで、夏まつりのくじ引きをやっています。くじを引くのは、引きかえけんと交かんで、引きかえけんは二千円の買いかものをするともらえます。また、二百円の買いかものでほじょけんももらえ、ほじょけんが十まいあつまると、引きかえけんと交かんでくれます。お母さんとケンタは、ほじょけんのことを話しているうちに、小数の話になりました。

「0リットルと一リットルの間のりようを考えるために、ペットボトルに目もりをかくことができるよね。こんなかんじ。」

お母さんはそう言つて、紙をとり出して、絵をかきました。



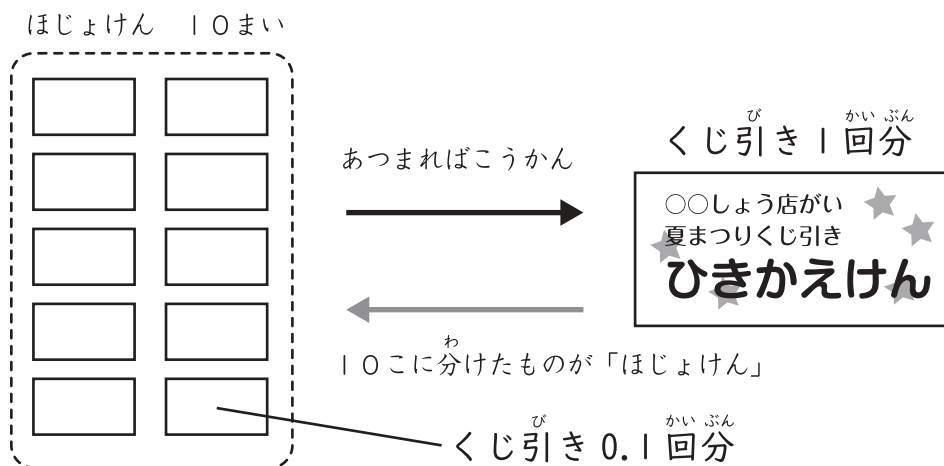
これは
四分

「こうすれば、入っているりようは一目もり分とか、二目もり分とか、せつ明ができる。」

「うん。」

「目もりを、一リットルを十こに分けるようにかく

とするわね。十とう分つていうことね。この一目もり分のりようを0・一リットルっていうのよ。」
「つまり、一を十とう分した数が0・一っていうことなんだね。」



「そういうこと。」
「うん、分かった。」
「ほじょけんが十まいで、一回くじ引きができるでしょう。ということは、ほじょけん一まいは、引きかえけんを十とう分したものでっていうことになるよね。だから、くじ引き0・一回分つて言ったのよ。」
「そうか。そうすると、もしかしてほ

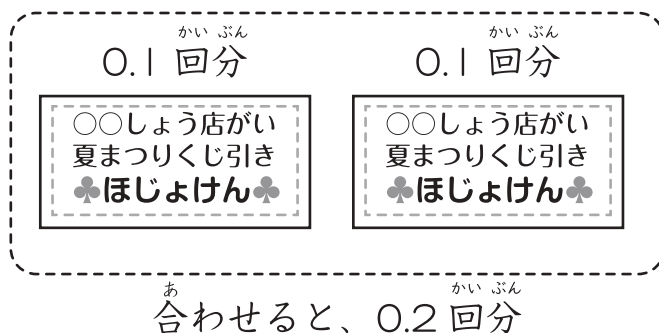
じょけん二まいは、くじ引き0・二回分っていうことになるの。」

「お、するどいなあ。そのとおりよ。三まい、四まいってふえていけば、0・三分、0・四回分ってなって、十まいになれば一回分になるというわけ。そういえば、一を十とう分してかいた目もりって、文ぼうぐにもついてるわよ。」

「え、そうなの。文ぼうぐか。なんだろうなあ。あ、そうか。ものさしに細かい目もりがかいてあるけど、もしかしてあれが十とう分なの。」

「正しい。」

「なるほど。0・一っておもしろいなあ。よし、0・一回けんをあつめるぞ。」
ますます、くじ引きにはりきるケンタでした。



(1) お母さんは小数のせつ明をするために、なんの絵をかきましたか。()に当てはまることばを書きましょう。

()に目もりをかいた絵

(2) 一リットルを十とう分したりようは何リットルですか。

(3) ほじょけん一まいは、くじ引きなん回分ですか。

(4) ほじょけん三まいは、くじ引き何回分ですか。

(5) 一を十とう分した目もりがついている文ぼうぐはなんですか。

つぎの文を読んで答えましょう。

ケンタはしょう店がいの夏まつりの、くじ引きの引きかえけんの「ほじょけん」をあつめています。ほじょけん十まいで、引きかえけんと交かんしてもられます。

「今、ほじょけんは何まいあつまったの。」

本やさんの前で、お母さんがケンタに聞きました。

「今、六まいだよ。だから、くじ引き0・六回分だね。」

「あら、すっかり0・一をつかつてるのね。ほじょけんは一まいで0・二回だから、六まいで0・六回、

そう考えたんでしよう。正かい、ばっちりよ。」

そこに、本やさんから出てきたとなりの山田さんが通りかかりました。

「ケンタくん、こんにちは。ほじょけんをあつめているの。今、本を買ってほじょけんを二まいもらったから、あげよう。はい、どうぞ。」

「え、本当。ありがとう。0・二回分ゲットだ。」

「0・二回分って、なんのこと。あ、そうか。ほじょけんを十まいあつめれば一回くじ引きができるから、ほじょけん一まいが0・一回分っていうこと

だね。よくそんなこと考えたね。」

「うん。でも、お母さんに教わったんです。山田さんにもらって八まいになったから、あと二まいでくじ引きができるんです。」

「そうか。あと0・二回分だね。お母さんのお買い物のお手つだいをすれば、きつとあつまるよ。」と、山田さん。

「あ。そういえば、はみがきがなくなりそうって、お父さんが言ってたよね。買って帰ろうよ。何かほかに買うものないのかなあ。」

「もう、しょうがないわね。じゃあ、牛にゆうを買って帰ろうか。そうすれば、きつと四百円をこえるわ。」

「やったあ。山田さん、ありがとう。おかげで引きかえけんがもらえそうです。」

「それはよかった。じゃあ、くじ引きでいいものが当たるといいね。」

「え、そういえばそうだ。ほじょけんをあつめることばかり考えていて、くじを引くことはすっかりわすれてた。何が当たるんだっけ。」

やれやれ。0・一^{いち}とほじょけんあつめにむちゅうになりすぎて、だいじなことをわすれていたようです。こんなちょうしで、いったい何^{なに}が当た^あるのでしょうね。

(1) ケンタがくじ引き0・六^{ろっかいぶん}回分と言^いったとき、ほじょけんを何^{なん}まいもっていましたか。

(2) となりの山田^{やまだ}さんは、どこから出^でてきましたか。

(3) となりの山田^{やまだ}さんからほじょけんをもらって、ほじょけんはくじ引き何^{なんかいぶん}回分になりましたか。

(4) お母さんは、何^{なに}を買^かえば四百円^{よんひゃくえん}をこえると言^いいましたか。

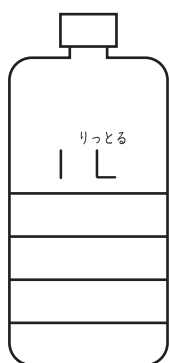
(5) ケンタはほじょけんをあつめることばかり考^{かんが}えていて、だいじなことをわすれていました。何^{なに}をわすれていましたか。

つぎの文を読んで答えましょう。

ケンタの町のしょう店がいで、夏まつりのくじ引きをやっています。くじを引くのは、引きかえけんと交かんで、引きかえけんは二千円の買いのをするもらえます。また、二百円の買いのでほじょけんもらえ、ほじょけんが十まいあつまると、引きかえけんと交かんでくれます。お母さんとケンタは、ほじょけんのことを話しているうちに、小数の話になりました。

「0リットルと一リットルの間のりようを考えるために、ペットボトルに目もりをかくことができるよね。こんなかんじ。」

お母さんはそう言っ
て、紙をとり出して
絵をかきました。

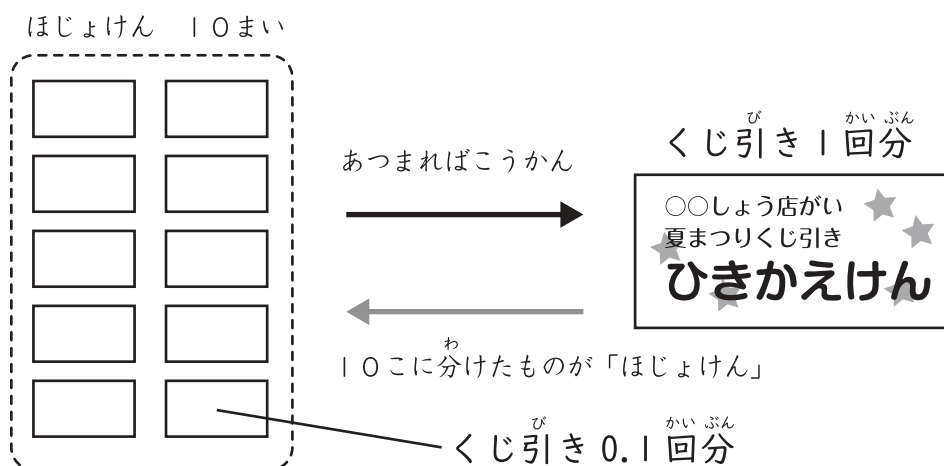


これは
四分

「こうすれば、入っ
ているりようは一
目もり分とか、二
目もり分とか、せ
つ明ができる。」

「うん。」
「目もりを、一リットルを十こに分けるようにかく

とするわね。十とう分っていうことね。この一目もり分のりようを0・一リットルっていうのよ。」
「つまり、一を十とう分した数が0・一っていうことなんだね。」



「そういうこと。」
「うん、分かった。」
「ほじょけんが十まいで、一回くじ引きができるでしょう。ということ
は、ほじょけん一まいは、引きかえけんを十とう分したものっていうことになるよね。だから、くじ引き0・一回分って言ったのよ。」
「そうか。そうすると、もしかしてほ

じょけん二まいは、くじ引き0・二回分っていうことになるの。」

「お、するどいなあ。そのとおりよ。三まい、四まいってふえていけば、0・三回分、0・四回分ってなつて、十まいになれば一回分になるというわけ。そういえば、一を十とう分してかいた目もりって、文ぼうぐにもついてるわよ。」

「え、そうなの。文ぼうぐか。なんだろうなあ。あ、そうか。ものさしに細かい目もりがかいてあるけど、もしかしてあれが十とう分なの。」

「正しい。」

「なるほど。0・一っておもしろいなあ。よし、0・一回けんをあつめるぞ。」

ますます、くじ引きにはりきるケンタでした。

0.1 回分

〇〇しょう店がい
夏まつりくじ引き
♣ほじょけん♣

0.1 回分

〇〇しょう店がい
夏まつりくじ引き
♣ほじょけん♣

あわせると、0.2 回分

(1) お母さんは小数のせつ明をするために、ペットボトルの絵に何をかきましたか。

(2) 0・一リットルは、何リットルを十とう分したリょうですか。

(3) ほじょけん一まいは、引きかえけんを何とう分したものということになりますか。



(4) ほじょけん^に二まいは、くじ引き^び何回分^{なんかいぶん}ですか。

(5) 文ぼうぐ^{ぶんぼうぐ}についている一^{いち}を十^{じゅう}とう分^{ぶん}した目^めも
りとはなんですか。() に当てはまることば
を書^かきましよう。

ものさしの () 目^めもり

つぎの文を読んで答えましょう。

ケンタはしょう店がいの夏まつりの、くじ引きの引きかえけんの「ほじよけん」をあつめています。ほじよけん十まいで、引きかえけんと交かんしてもられます。

「今、ほじよけんは何まいあつまったの。」

パンやさんの前で、お母さんがケンタに聞きました。

「今、六まいだよ。だから、くじ引き0・六回分だね。」

「あら、すっかり0・一をつかつてるのね。ほじよけんは一まいで0・二回だから、六まいで0・六回、

そう考えたんでしょう。正かい、ばっちりよ。」

そこに、パンやさんから出てきたとなりの山田さんが通りかかりました。

「ケンタくん、こんにちは。ほじよけんをあつめているの。今、パンを買ってほじよけんを二まいも

らったから、あげよう。はい、どうぞ。」

「え、本当。ありがとう。0・二回分ゲットだ。」

「0・二回分って、なんのこと。あ、そうか。ほじよけんを十まいあつめれば一回くじ引きができるから、ほじよけん一まいが0・一回分っていうこと

だね。よくそんなこと考えたね。」

「うん。でも、お母さんに教わったんです。山田さんにもらって八まいになったから、あと二まいでくじ引きができるんです。」

「そうか。あと0・二回分だね。お母さんのお買い

もののお手つだいをすれば、きつとあつまるよ。」

と、山田さん。

「あ。そういえば、はみがきがなくなりそうって、お父さんが言ってたよね。買って帰ろうよ。何か

ほかに買うものないのかなあ。」

「もう、しょうがないわね。じゃあ、バターを買って帰ろうか。そうすれば、きつと四百円をこえるわ。」

「やったあ。山田さん、ありがとう。おかげで引きかえけんがもらえそうです。」

「それはよかった。じゃあ、くじ引きでいいものが当たるといいね。」

「え、そういえばそうだ。ほじよけんをあつめることばかり考えていて、くじを引くことはすっかり

わすれてた。何が当たるんだっけ。」

やれやれ。0・一^{いち}とほじよけんあつめにむちゅうになりすぎて、だいじなことをわすれていたようです。こんなちようしで、いったい何^{なに}が当^あたるのでしょうね。

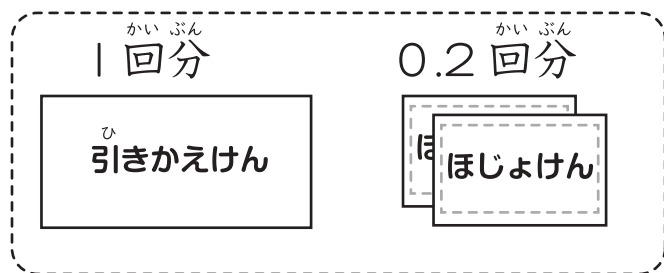
(1) 山田^{やまだ}さんと会^あう前^{まえ}、ケンタはほじよけんを何^{なん}まいもっていましたか。

(2) となりの山田^{やまだ}さんは、どこから出^でてきましたか。

(3) ケンタは、となりの山田^{やまだ}さんから、ほじよけんを何^{なん}まいもらいましたか。

(4) お母^{かあ}さんは、何^{なに}を買^かえば四百円^{よんひゃくえん}をこえると言^いいましたか。

(5) ケンタがくじを引^ひくのをわすれていたのは、なんのことばかり考^{かん}えていたからですか。
() に当^あてはまることばを書^かきましよう。
() をあつめること。



1と0.2で、1.2回分

つぎの文を読んで答えましょう。

しょう店^{てん}がいの夏^{なつ}まつりも五日^{いつかめ}目。お母^{かあ}さんが
おつかいでもらったりして、くじ引き^ひの引きかえ
けんとほじょけんが、だいぶあつまりました。

「お母^{かあ}さん。引きかえけんとほじょけんがたくさ
んたまったよ。」

ケンタがお母^{かあ}さんに言^いいました。

「へえ。何^{なん}まいあるの。」

「引きかえけんが二^にまい、
ほじょけんが十四^{じゅうよん}まい。」

「へえ、ずいぶんあつめたね。
夏^{なつ}まつりはあと三日^{みっか}だから、
くじ引き^ひに行^いかないとね。」

「お母^{かあ}さん。このけんぜんぶ
で、くじ引き^ひ何回^{なんかいぶん}分^{ぶん}になる
のかなあ。小数^{しょうすう}をつかって。」

「そうか。一^{いち}より大き^{おお}くなつ
たときにどうすればいいか、
分^わからないよね。一^{いち}と0・一^{いち}
を合^あわせた数^{かず}を一^{いっぺん}・一^{いっぺん}つて

いうの。二^にと0・三^{さん}を合^あわせたら二^に・三^{さん}ね。」

「なるほど。ふつうの一^{いち}、二^に、三^{さん}つていう数^{かず}に、
小数^{しょうすう}をつけて言^いえばいいんだね。それならか
んたんだ。」

「そういうこと。でも、今^{いま}あつまつたけんを小数^{しょうすう}
をつかって言^いうときには、ちよつと氣^きをつけな
きゃいけないのよ。ほじょけんが十^{じゅう}まいよりた
くさんあるからね。」

「そうか。ほじょけんが十四^{じゅうよん}まいあるんだつた。
これを小数^{しょうすう}で言^いうと、くじ引き^ひ0・十四^{じゅうよん}回^{かい}分^{ぶん}
ていうのかなあ。お母^{かあ}さん、それでいいの。」

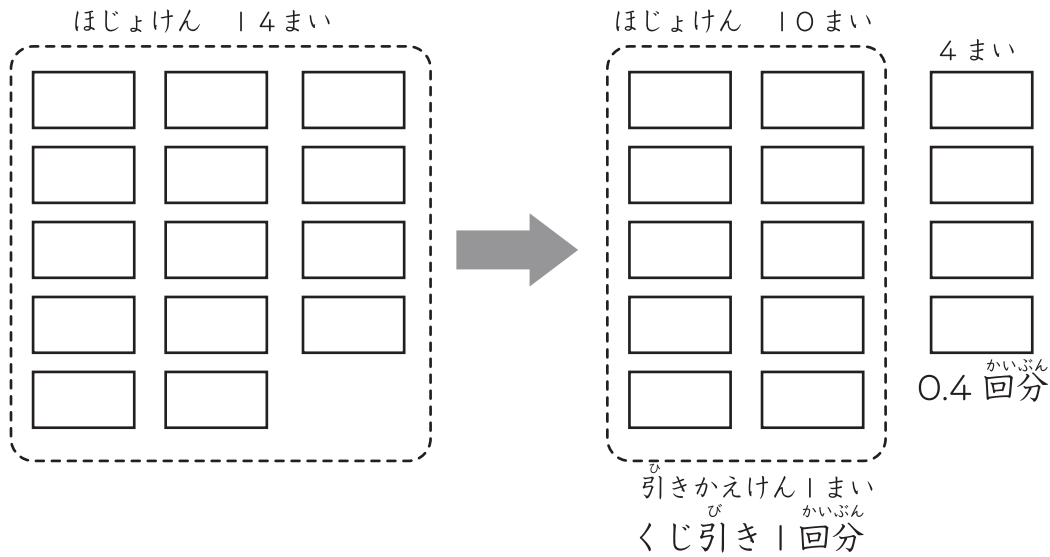
「それがちがうんだなあ。十四^{じゅうよん}まいっていうこと
は、十^{じゅう}まいと四^{よん}まいに分^わけられるよね。」

「うん。」

「じゃあ、十^{じゅう}まいは何^{なんかいぶん}回^{かい}分^{ぶん}。」

「ええつと、0・十^{じゅう}回^{かい}分^{ぶん}じゃなくて…。あ、そうか。
十^{じゅう}まいあつめれば、引きかえけんと交^{こう}かんして
くれるんだから、十^{じゅう}まいは一^{いっかいぶん}回^{かい}分^{ぶん}だつた。」

「よく思^{おも}い出^だしたわね。そのとおりよ。だから、
十^{じゅう}まいと四^{よん}まいはべつべつに考^{かんが}えて、一^{いっかいぶん}回^{かい}分^{ぶん}と0・



四回分。何回分か考えるときには、はじめに十ま
いのまとまりを作つて、引きかえけん一まいって
数えれば分かりやすいよね。」

「そうか。そうい
うことか。じゃ
あ、引きかえけ
ん二まいとほ
じょけん十四ま
いを合わせる
と、くじ引き三
回分か。お母
さん。合つて
よね。」

「うん。そのとお
り。でも、0・
四回のくじ引
きっていうの
は、本当はない
から、くじ引き
ができる回数
は

三回ね。」

「0・四回分はむだってことか。何かかわいそうだ
なあ。」

「あはは。かわいそうっておもしろいね。でも、
ほじょけんっていうのはそういうものだから、
それでいいのよ。」

そう言われながらも、ケンタはちよつとざんね
んそう。でも、かわいそうと思つてもらえるほじょ
けんは、しあわせものといつてもいいでしょう。
やさしいケンタに、すてきなけいひんが当たると
いいですね。

(一) 二と0・三を合わせた数をなんといいいますか。



(2) あつまったけんを、小数をつかって言うときには、ちよつと気をつけなければなりません。それはどんなときですか。()に当てはまることを書きましょう。

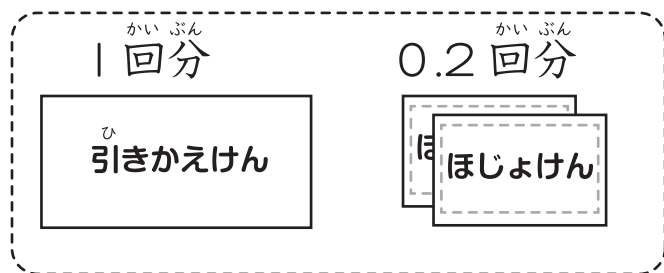
ほじょけんが()あるとき。

(3) 引きかえけん二まいとほじょけん十四まいを合わせると、くじ引き何回分になりますか。

(4) 引きかえけんとほじょけんを合わせると、何回くじを引くことができますか。

(5) あまった0・四回分のほじょけんのことを、ケントはどのようにかんじましたか。()に当てはまることを書きましょう。

何か()だとかんじた。

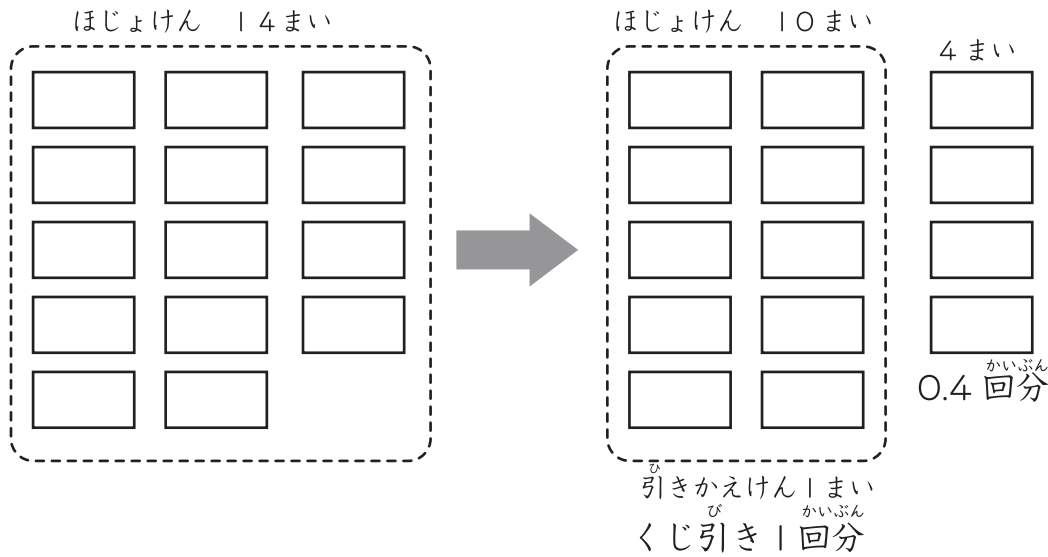


1と0.2で、1.2回分

「引きかえけんが二まい、ほじょけんが十四まい。」
 「へえ、ずいぶんあつめたね。夏まつりはあと三日だから、くじ引きに行かないとね。」
 「お母さん。このけんぜんぶで、くじ引き何回分になるのかなあ。小数をつかって。」
 「そうか。一より大きくなつたときにどうすればいいか、分からないよね。一と0.一を合わせた数を一・一

つぎの文を読んで答えましょう。
 しょう店がいの夏まつりも五日目。お母さんがおつかいでもらったりして、くじ引きの引きかえけんとほじょけんが、だいぶあつまりました。
 「お母さん。引きかえけんとほじょけんがたくさんたまつたよ。」
 ケンタがお母さんに言いました。
 「へえ。何まいあるの。」

つていうの。二と0.三を合わせたら二・三ね。」
 「なるほど。ふつうの一、二、三っていう数に、小数をつけて言えいいんだね。それならかんだんだ。」
 「そういうこと。でも、今あつまったけんを小数をつかって言うときには、ちよつと気をつけないといけないのよ。ほじょけんが十まいよりたくさんあるからね。」
 「そうか。ほじょけんが十四まいあるんだつた。これを小数で言うとき、くじ引き0・十四回分つていうのかなあ。お母さん、それでいいの。」
 「それがちがうんだなあ。十四まいっていうことは、十まいと四まいに分けられるよね。」
 「うん。」
 「じゃあ、十まいは何回分。」
 「ええつと、0・十回分じゃなくて……。あ、そうか。十まいあつめれば、引きかえけんと交かんしてくれるんだから、十まいは一回分だった。」
 「よく思い出したわね。そのとおりよ。だから、十まいと四まいはべつべつに考えて、一回分と



0・四回分。何回分か考えるときには、はじめに十まいのまとまりを作って、引きかえけん一まいって数えれば分かりやすいよね。」

「そうか。そういうことか。じゃあ、引きかえけん二まいとほじょけん十四まいを合わせる」と、くじ引き三・四回分か。お母さん。合ってるよね。」

「うん。そのとおり。でも、0・四回のくじ引きっていうのは、本当はないから、くじ引きができる回数」

三回ね。」

「0・四回分はむだってことか。何かかわいそうだなあ。」

「あはは。かわいそうっておもしろいね。でも、ほじょけんっていうのはそういうものだから、それでいいのよ。」

そう言われながらも、ケンタはちよつとざんねんそう。でも、かわいそうと思ってももらえるほじょけんはしあわせものといってもいいでしょう。やさしいケンタに、すてきなけいひんが当たるといいですね。

(一) 一と0・一を合わせた数をなんといいいますか。



(2) あつまったけんを、小数をつかって言うときには、ちよつと気をつけなければなりません。気をつけなければならぬのは、ほじょけんが何まいよりたくさんあるときですか。

(3) 十四まいのほじょけんを、何まいと何まいに分けて考えていますか。

(4) ほじょけん十四まいは、くじ引き何回分になりますか。

(5) ぜんぶでくじ引き三・四回分のけんで、くじは何回引けますか。